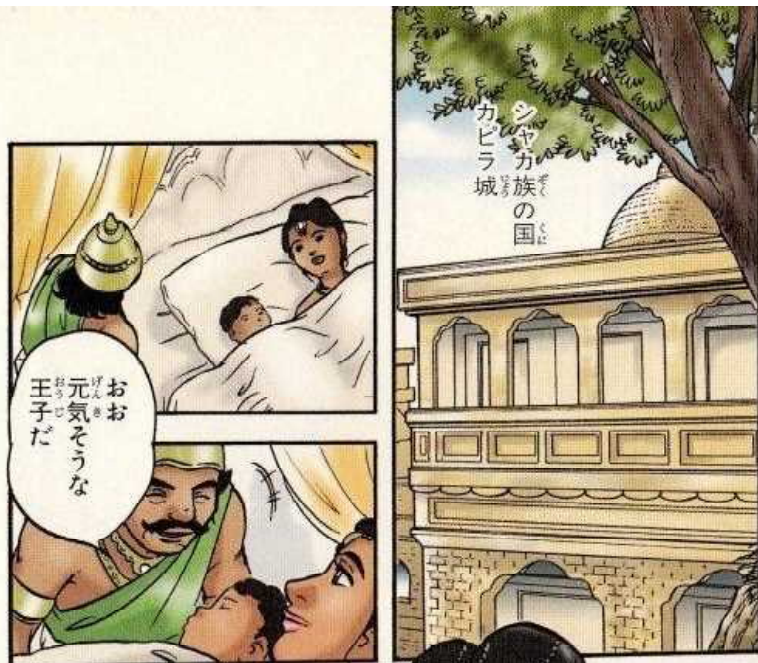


涅槃会とは

1



仏教の誕生



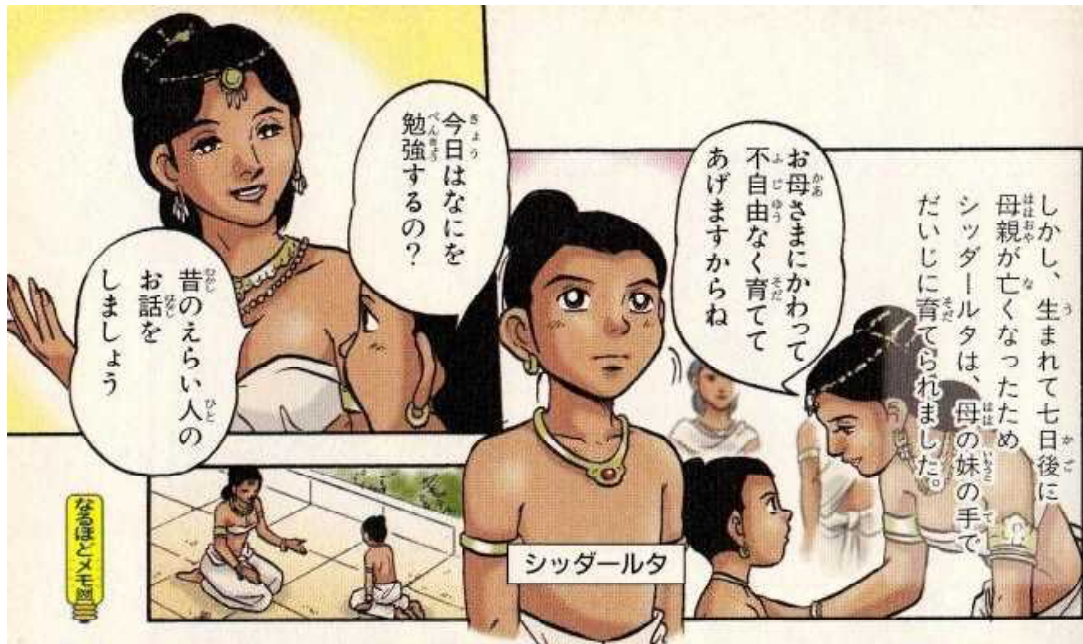
この子は夢のなかに
白いゾウが現れたときに
宿った子なんですよ

日本では、おシヤカさまとして
知られるガウタマシツタールタは
シヤカ族の王子として
紀元前四六三年ごろの四月八日に
生まれました。

生まれると、すぐにヨチヨチと
七歩歩き「天上天下唯我独尊」と
唱えたといわれます。

四月八日の誕生日は
いまでも「花祭り」と
して、おおぜいの
人に祝われています。

！
天上天下唯我独尊 ほかのだれともかえることのできない世界でたったひとりの自分の存在はともにも尊いものだ、という意味です。



なまはてとくま

シッダールタ

シッダールタの誕生年 シッダールタが生まれたのは、紀元前五三三年ごろなどの説もあります。



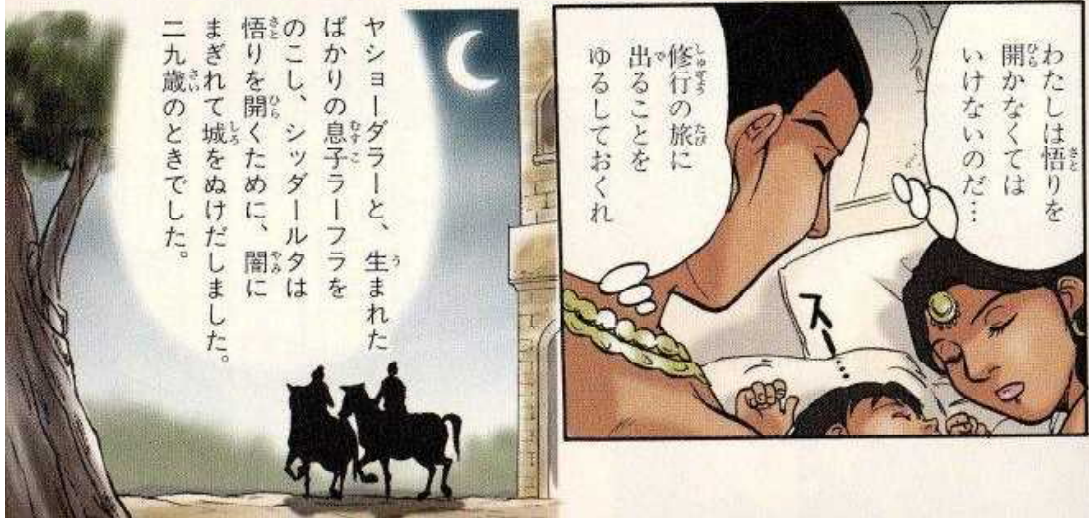
ものしりハート

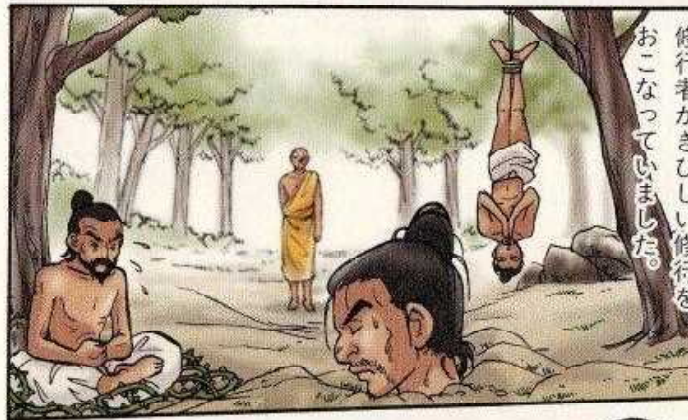
古代インドの 戦争と英雄の物語

このころに起こったできごとを題材にした文学が紀元前三〜四世紀ごろ生まれます。その代表が「マハーバーラタ」と「ラーマヤナ」というふたつの物語です。「マハーバーラタ」は、バラタという部族の戦争のことが迫力たっぷりに書かれています。いっぽう「ラーマヤナ」は英雄の物語で、コーサラ国の王子ラーマが、奪われた妻をとりもどすために、途中、困難に立ち向かいながらもさまざまな冒険をくりひろげます。これらの物語は東南アジアにも伝えられ、有名なアンコール・ワットの浮き彫りなどに影響をあたえました。











次に、シッダールタは川のほとりの山林にやってきました。そこで、五人の若い僧とともに瞑想の行に入りました。

幸福とは
なにか…

悟りを開くには
あまり栄養をとっては
だめなんだよ



では断食をしよう
一日に麦と麻の実を
一粒だけだ

ひえー
それで
もつかね？

シッダールタは
仲間とともに
六年間もきびしい
修行をつづけました。



▲断食をつづけるシッダールタの像



これで栄養を
つけてください

そこに、乳がゆを持った
スジャータという
少女がやってきました。



しかし苦しい断食は
精神がもうろうとする
だけでした。

シッダールタは
むなしさを感じ
よろよろと
山林を出ました。

ひとりだけ
やめるのか？
挫折だぞ

いいんだ…
また会おう



ありがとう

元気が出て
きました



！ 諸行無常 すべてのものやことは、つねに変化しつづけて、すこしのあいだもおなじ状態じょうたいでいることはないということです。
 ブッダ 「悟りを開いた人」のことですが、「般には、悟りを得たのちのシッダールタをさします。





悟りを開いたブツダは
ガンジス川のほとりに
ある鹿野苑に行きました。

そこでは、かつていつしよに
修行をした五人の仲間が
まだきびしい修行を
つづけていました。



おい

おや
あの人は…



ついに悟りを
開いたのか！

ざわっ

すばらしい！



…ついに
わかりました



ぜひわたしたちを
最初の弟子にして
ください



ブツダは
正しい道を
実践すれば
人はみな
救われると
やさしく語り
かけました。



わたしは
安らぎのなかで
心の目が開きました…

ブツダは自分の悟ったことを
はじめに、五人の仲間
に説きました。



やがて、いろいろな人が
説法を聞こうと
ブツダのもとを
おどすれました。

階級に関係なく
自由に参加できる
そうだよ

ありがたいことだ
シュードラ出身の
わたしでも説法を
受けられるなんて

出家するのに
男女は平等なん
ですって！

バラモンとちがって
わかりやすいなあ



どうかわたしの
建てた僧院で説法を
おこなってください

ありがとう

寄贈された僧院のなかでも
祇園精舎は有名です。
また、このように援助する
ことをターナとよびました。

ブツダは、以後四五年間、
説法をしながら各地をまわり、
多くの人々を信者にしました。
息子のラーフラも、父の弟子となり、
仏教を広めるために力をつくしました。

祇園精舎は当時のコーサラ国の首都近くにありました。ここに住んでいたスタッタという長者がブツダをたいへん尊敬していて、ぜひコーサラ国に来てもらいたいと思い、建てたものです。

スタッタが建設にふさわしいと目をつけた土地は、王子のマンゴー園でした。王子は「この土地全体に黄金をしきつめることができたらゆずってもいい」とむりをいいましたが、心からブツダをしたっていたスタッタは全財産を使って本気で黄金をしきつめはじめました。

これを見た王子はとても感動して、とうとう土地をゆずってくれ、この有名な精舎ができあがったといわれています。

ものしり ノート

黄金をしきつめて
できた祇園精舎



わたしも
八〇歳になった…

おそらく
これが最後の旅
だろう…

なにを
いわれます



！
涅槃 まよいをたち精神が自由になった状態も意味します。



どうしたの
ですか!?

とっせん、はげしい腹痛に
おそわれたブツダは
そのまま力つきて
たおれてしまいました。

うう…

うっ!



▲ブツダの涅槃像

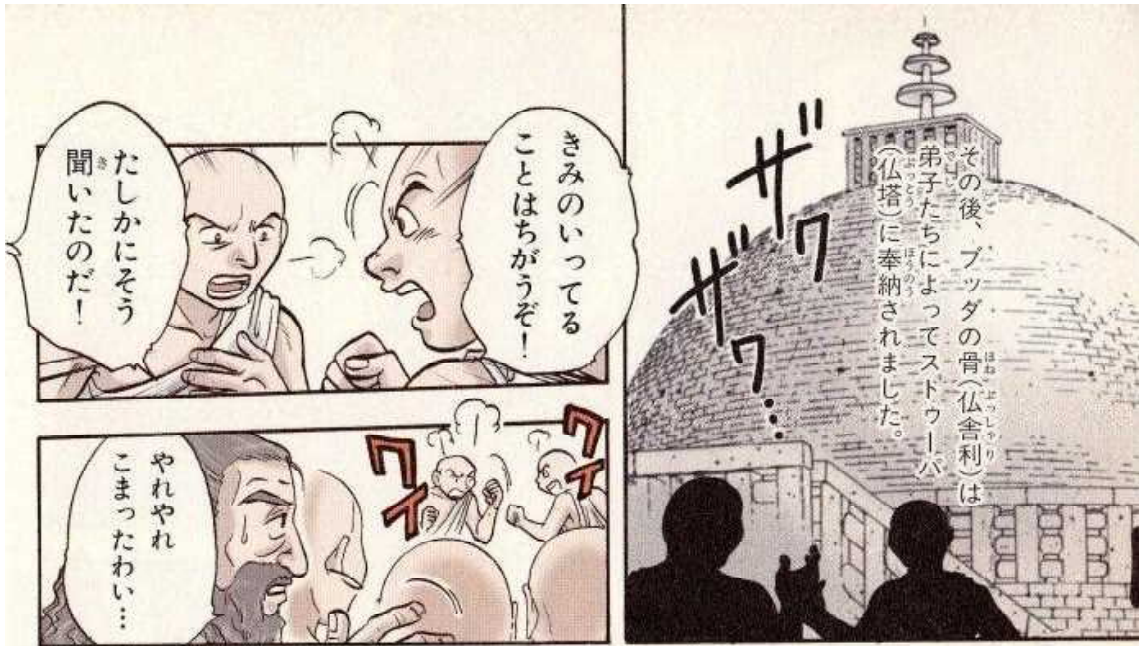
ブツダは、沙羅双樹という
木の下でおおぜいの信者に
見守られながら
息をひきとりました。
ブツダの死を「入滅」といい、
また「涅槃」ともいいます。



…あらゆるものは
かならず滅びる
のです…

あなたがたは
これからも一生懸命
修行してください…







彼ら中国の僧によって
日本にも仏教が
伝わったんだね

インドで生まれた仏教は
アジアの各地に広がり
発展していったんだ
中国からは仏教をより深く
きわめようと玄奘をはじめ
たくさんのお僧がインドに
勉強にきたんだよ

!
玄奘 六〇二〜六六四年。唐の時代の僧で、「西遊記」の三蔵法師のモデルになった人です（第八巻を見てください）。

**ものしり
ノート**
日本に根づいた
ブッタの教え

仏教が日本に伝わったのは六世紀のことです。聖徳太子などの努力で、最初は飛鳥地方（奈良県）を中心に広がっていきました。
その後ますます発展し、奈良時代には有名な東大寺の大仏が建立されました。
しかし、このころはまだ一般の民衆にまでは広まっていませんでした。貴族だけのものからほんとうの広がりをみせたのは、親鸞（浄土真宗）や日蓮（日蓮宗）などが新しい仏教をおこした鎌倉時代からです。
発祥の地インドでは、仏教を信じる人は少なくなっていますが、日本では現在も多くの人に信仰され、毎日の生活のなかに強く根づいています。

この章に登場する[ジャンカラ]は歴史上実在の人物ではありません。